

帯同ドクターのあり方について
～帯同ドクターの業務モデル～

2017年6月

公益財団法人 日本体育協会

スポーツ医・科学専門委員会

国民体育大会委員会

国民体育大会都道府県選手団本部役員としての 帯同ドクターのあり方について

国民体育大会に参加する都道府県の選手団には、ドクターを帯同させることが義務づけられている（国民体育大会開催基準要項第31条第2項）。

以下に示す業務モデルは、都道府県選手団に帯同するドクターが国体に参加する選手の健康と安全を確保するための指針として作成したものである。都道府県体育（スポーツ）協会と帯同ドクターはこのモデルにしたがって活動し、よりよい選手団サポートを行っていただくことを期待する。

帯同ドクターの業務モデル

1. 国体開催期間前

(1) 選手のメディカルチェック

国民体育大会の参加者は、国民体育大会開催基準要項細則〔第3項第1号1〕－⑦－(ii)において「健康診断を受け、健康であることを証明された者であること」と明記されており、各都道府県ではそれぞれ選手に対してメディカルチェックを行っている。

帯同ドクターはメディカルチェックに参加することが望ましい。また、参加できなかった場合でも、その結果を確認し、選手の健康状態を把握するとともに選手へのフィードバックを迅速に行う。

メディカルチェックで得られた情報をもとに、各選手の問題点を整理したリストを作成し、帯同時には現地へ持参し、大会期間中は適宜活用する。

⇒別添① **「メディカルチェック推奨項目」参照**

(2) ドーピング・コントロールへの対応

各都道府県体育協会におけるアンチ・ドーピング対応責任者を選出し、帯同ドクターは当該責任者と密に連絡を取り合うなど、適切な対策をとる。

具体的には、都道府県内でドーピング・コントロールに関する研修会・講習会を開催し、選手・監督等関係者に情報を提供する（「Play True Book」や「アスリートインフォブック」等の活用を奨励）。また、問診（メディカルチェック等）での情報を活用するなどして、選手の使用している薬やサプリメントを確認し、禁止物質を使用したり禁止方法を行ったりしている者がいた場合には、薬の変更やTUE申請の指導をするなどの対応をとる。

TUE申請について不明な点があれば、(公財)日本アンチ・ドーピング機構(JADA)へ問い合わせることができる（電話：03-5963-8030）。また、各都道府県薬剤師会には薬事情報センターがあるので（<http://www.playtruejapan.org/medicine/hotline/>）、医薬品の内容確認などに利用することができる。

(3) 結団式への参加

原則的に、大会に先立って各都道府県で行われる結団式に参加し、各競技の選手・監督・その他役員との顔合わせや情報交換を兼ねるとともに、ドーピング防止に関する講習会等を実施する。

(4) 開催地での医療情報の収集

各会場地における救護所設置計画については、国体開催前に参加都道府県に配布される「ドクターズミーティング メディカルガイド」に綴じられている医療・救護関係資料に記載されている。この内容を確認し、必要に応じて事前に選手団へ情報提供を行う。

(5) 選手団持参医薬品類の準備

選手団本部に選手・役員用の医薬品を準備しておく。医薬品の準備例を別添②に挙げておく。また、選手団本部だけでなく、各競技のチームに同様の医薬品を準備しておくもよい。

⇒「アンチ・ドーピング使用可能薬リスト」(日本体育協会 HP) 参照

(6) 開催地における選手団内の連絡方法の確認

携帯電話による連絡方法が一般的であるが、個人情報保護の観点から、個人の携帯電話を用いるよりも大会期間中のみレンタル携帯電話等を活用することが望ましい。

2. 国体開催期間中

(1) ドクターズミーティングへの参加

国民体育大会開会式の前日に開催されるドクターズミーティングに参加し、国体における医療救護体制をはじめとしたスポーツ医・科学分野の情報を収集する。

(2) 選手団での医学サポート活動

帯同ドクターは、選手・役員に対する応急処置を行うとともに、医療機関での対応が必要か否か、競技参加が可能か否かを判断することを主たる業務とする。

医学サポートを行った場合には、活動記録を作成し、症状、所見、傷病名等を記録する。

⇒別添②「国民体育大会 帯同ドクター活動記録モデル」参照

・ 競技会場での対応

① 帯同ドクターは積極的に会場へ出向き、重点競技（傷害発生リスクの高い競技や各都道府県における重点強化競技など）を中心に会場視察を行う。

選手に傷害が発生した際は、会場救護所のドクターと協力して応急処置を行うとともに、必要であれば当該競技への参加可否および後方医療機関への移送についても判断する。

② 競技団体付ドクターに対応を依頼した場合には、活動情報を選手団本部に転送してもらるようにする。

③ ドクターによる対応がなかった場合でも、選手・役員に何らかの異常が生じた場合には、その状況を選手団本部に伝達するよう、各競技団体に要請する。

・ 宿舎での対応

国民体育大会では開催都道府県内全域にわたって競技が行われるため、宿舎が分散し、選手団として宿舎での医学サポートを行うことが困難である。選手団本部の近隣に宿泊する競技であれば、選手団本部で医学サポートを行うことが可能であるが、競技が開催される市町村によっては選手が直接選手団本部を訪問することが困難なことも少なくない。

そのような場合、a) 帯同ドクターが往診する、b) 競技担当のドクターが対応する、c) 電話で問診し適切な医療機関受診を指示する、d) 帯同トレーナーがいる場合は情報交換をもとに適切な助言を行う、などの対応が考えられるが、複数のドクターが帯同できる場合には、滞在場所を一か所にかためることは避け、開催都道府県の地勢に合わせた配置をすることが望ましい。

(3) ドーピング検査への対応

ドーピング検査では選手に1名の同伴が認められており、帯同ドクターが同席できれば都道府県が検査対象者の情報を管理する上で効率的である。

しかしながら、ドーピング検査は事前通告なしで行われるため、帯同ドクターが全対象者と行動をともにすることは事実上不可能である。多くの場合、チーム関係者（監督、トレーナーなど）が対象選手に同伴するため、常に帯同ドクターと連絡が取れるようにしておき、選手からドーピング検査についての疑問があったときに答えられるようにしておくことが望ましい。ただし、ドーピング検査室での対応は、電話連絡が可能であるか否かを含め、DCO(ドーピング検査員)の指示に従うこと。

薬剤の取り扱いについて選手からアドバイスを求められた場合、不明なことがあれば、開催都道府県の薬事情報センターへ問い合わせることができる。

また、検査終了後、対象選手の監督はドーピング検査公式記録書の選手用コピーを複写し、必ずその複写を選手団本部に提出することを徹底する。

(4) その他

① 食事

献立の内容や選手の食事摂取状況を確認し、適切な指導を行う。

② 環境

競技会場や宿舍の気候や気温についての情報を収集し、その対応策を選手団に提供する。

③ 感染症

細菌またはウイルスによる感染症の発生に注意し、感染症の患者発生が疑われた場合には適切な対応を行う。

3. 国体開催後

(1) 国体期間中に発生した傷病に対する地元医療機関への引継ぎ

大会終了まで持ち越した傷病があれば、事後措置として選手居住地（勤務地）近くの医療機関に引き継ぐ。必要があれば紹介状を作成し、受診を積極的に勧める。

(2) 活動状況に関する報告書の作成

上記業務（大会前～大会終了）についての活動を報告書としてまとめる。報告書には活動の概略や取り扱った医学サポート、特記事項などを記載し、都道府県体育（スポーツ）協会の記録として残す。⇒別添③ 「国民体育大会帯同ドクター活動リスト」参照

メディカルチェック推奨項目（案）

1. 一次スクリーニング

1) アンケート方式または直接検診による問診

- (1) 既往歴(外傷・障害歴、疾病歴)
- (2) 現病歴
- (3) 医薬品・サプリメントの摂取状況
- (4) 現在のコンディションについて
- (5) 月経について
- (6) 心理面について

2) 臨床検査：学校、職場検診での結果を利用しても良い

- ・血液検査：血球算定、血液生化学検査（GOT、GPT、※総コレステロール、LDLコレステロール、※HbA1-C、クレアチニン）

※総コレステロール、HbA1-C はオプションで追加することが望ましい

- ・尿検査
- ・安静時心電図

*競技による追加チェック、および中高年者や疾病を有する選手へは別途対応する

2. 二次精密検査

- 1) 主治医による対応または大学病院など専門医療機関による対応
- 2) 治療が必要な場合は、状況に応じて対応する
- 3) 参加可否の決定は、都道府県体育協会医科学委員会等の判断により、都道府県体育協会が決定する

3. フィードバック

メディカルチェックの結果は、できるだけ迅速に選手・チームにフィードバックし、チェックを有効に役立てるように努力する

国民体育大会 帯同ドクター活動記録モデル

大会名 期日 20 年 月 日 から 月 日 全参加人数 人

診察日 20 年 月 日 受傷日時 20 年 月 日 時間 : 24時間制で記入

Table with columns: AD 番号, 氏名, 男 / 女, 年齢, 所属チーム

Table with columns: 推定診断名, 確定診断があれば記載

Table with columns: 受傷場所, スポーツ内容, 天候, 晴れ 曇り 雨 風 その他, 気温 °C, 湿度 %, WBGT °C

Table with columns: 受傷状況, 競技中 [ラウンド()回戦/予選、準々決勝、準決勝、決勝など] 練習中 アップ中 クールダウン中 その他

Table for 外科的傷害 (Surgical Injuries) with columns: 傷害の原因, 主訴, 受傷部位, 傷害種類・診断

Table for 内科的障害 (Internal Disorders) with columns: 主訴・症状, 診断, 中枢神経・精神状態, 歩行状態, 診察時刻, 体温, 血圧, 脈拍

Table with columns: トレーニングまたは競技会への参加不能推定期間, 重症度, 901 軽症 902 中等症 903 重症 904 重篤

Table with columns: スポーツ復帰(転帰), 帰路, 継続 中止 その他(), 宿舎 病院(救急搬送あり なし) 自宅

治療および追記事項:

診察ドクター名

※推定診断名をのぞき、不明な項目は空欄でも結構です。

